

2022年度 事業報告書

2022年(令和4年)4月1日から2023年(令和5年)3月31日まで

公益財団法人 SOMPO美術財団

I. SOMPO美術館関係事項

1. 美術作品の収集、保存、公開

<1> 展覧会の開催

(1) シダネルとマルタン展

会期: 3月26日(土)～6月26日(日)

主催: SOMPO美術館、朝日新聞社 協賛: 損保ジャパン

後援: 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、新宿区

協力: 日本航空 企画協力: ブレーンラスト

19世紀末から20世紀前半のフランスで活躍した画家、アンリ・ル・シダネルとアンリ・マルタンに焦点を当てた国内初の二人展。印象派の光の表現を継承し、世紀末の象徴主義をはじめ同時代のさまざまな表現を吸収して独自の画風を確立した二人の足跡を、約70点の油彩・素描・版画による全9章構成で辿った。

【関連イベント】

- ① 内覧会、プレス内覧会 (3月25日)
- ② 観覧者にゴッホ《ひまわり》とシダネル1点とマルタン2点の写真撮影を許可した。
- ③ 学芸員によるスライドトークを実施。 (4月22日、5月20日、6月10日)

【主な放送・掲載誌等】

- ① NHK 首都圏版ニュース及びNEWS WEB (3/26 放送・配信)、FNNプライムオンライン(3/26 配信)、テレ朝 news(3/26 放送)、TBS「ひるおび」(3/28 放送)、フジテレビ「ライブニュースイット」生放送(4/7)、日本テレビ「Newszero」(4/12)、TBS「News23」(4/13)で放送された。
- ② 日経新聞(WEB版 3/24 配信)、朝日新聞夕刊「美の履歴書」(5/10 掲載)、美術展ナビ、美術手帖 WEB、東洋経済 ONLINE のほかインターネットや美術雑誌等で幅広く取り上げられた。

(2) スイス プチ・パレ美術館展 印象派からエコール・ド・パリへ

会期: 7月13日(水)～10月10日(月・祝)

共催: フジテレビジョン 協賛: SOMPOホールディングス 特別協力: 損保ジャパン

後援: 在日スイス大使館、新宿区 企画協力: ホワイトインターナショナル

スイスのジュネーヴにあるプチ・パレ美術館が収蔵する19世紀後半から20世紀前半にかけての近代フランス絵画の流れを、38名の画家による油彩画65点という充実したラインナップによって紹介した。

【関連イベント等】

- ① プレス及び一般内覧会 (7月12日)
- ② 観覧者にゴッホ《ひまわり》を含む収蔵品の撮影を許可した。
- ③ 学芸員によるスライドトークを実施。 (8月5日、8月26日、9月16日)

【主な放送・掲載誌等】

- ① フジテレビ「プレミアの巣窟」、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」(8/14)、東京MXテレビ「私の芸術劇場」(9/9)で放送された。

- ② ウェブサイト「楽活」「美術展ナビ」「美術手帖」「SPICE」、チケット販売サイトでの記事公開のほか、動画サイトや週刊新潮や美術雑誌等で紹介された。

(3) 英国キュー王立植物園 おいしいボタニカル・アート 食を彩る植物のものがたり

会期: 11月5日(土)～2023年1月15日(日)

共催: 日本経済新聞社 協賛: SOMPOホールディングス

特別協力: 英国キュー王立植物園、損保ジャパン

後援: ブリティッシュ・カウンシル、新宿区 協力: 日本航空 企画協力: プレーントラスト

本展は、食料や飲料となる植物に特化したボタニカル・アートの展覧会であり、作品と共に、植物(食物)にまつわる歴史的背景や物語を随所で紹介した。また 18 世紀末のレシピやヴィクトリア朝の主婦のバイブル『ビートン夫人の家政読本』やイギリスを代表するメーカーの食器やカトラリーなど、食にまつわる資料類も併せて展示し、18 世紀から 19 世紀のテーブルセッティングを再現するなど、イギリスの歴史と食文化への多方面からのアプローチを試みた。

【関連イベント等】

- ① プレス及び一般内覧会 (11月4日)
- ② 観覧者に、展覧会出品作品の一部(39点)とテーブルセッティングのほか、ゴッホ《ひまわり》を含めた収蔵品の撮影を許可した。
- ③ 2階休憩コーナーでイギリスの伝統菓子を現代風にアレンジした再現レシピを映像とパネルで紹介した。
- ④ 学芸員によるギャラリートークを実施。 (11月11日、12月9日、1月6日)

【主な放送・掲載誌等】

日本経済新聞や読売新聞のほか、ウェブサイト「CasaBRUTUS」「楽活」「美術展ナビ」「美術手帖」等での記事公開や共同通信による配信、「広報新宿 10/15 号」での掲載のほか、美術雑誌等で紹介された。

(4) FACE展2023

会期: 2月18日(土)～3月12日(日)

共催: 読売新聞社 協賛: SOMPOホールディングス

特別協力: 損保ジャパン 後援: 新宿区

11回目の公募コンクール「FACE」入選作品81点(うち受賞作品9点)を展示した。

【関連イベント】

- ① 表彰式、プレス及び一般内覧会 (2月17日)
受賞者には表彰盾を、入選者には作品のポストカード、応募者全員に展覧会図録と観覧券を贈呈した。
- ② 観覧者にゴッホ《ひまわり》を含めた全ての作品撮影を許可した。

【主な放送・掲載誌等】

美術の窓、月刊美術、新美術新聞等で紹介されたほか、ウェブサイト「インターネットミュージアム」「美術展ナビ」、コンペ情報サイト「登竜門」や CINRA に動画や記事が掲載された。

(5) ブルターニュの光と風

会期:3月25日(土)~6月11日(日)

共催:フジテレビジョン 協賛:SOMPOホールディングス 特別協力:損保ジャパン

後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、新宿区

企画協力:ホワイトインターナショナル

本展は、フランス北西部の地、ブルターニュに魅了された画家たちが描いた作品を通じ、同地の歴史や風景、風俗を幅広く紹介する展覧会であり、カンペール美術館の作品を中心に45作家による約70点の油彩・版画・素描を展示している。

【関連イベント】

- ① プレス及び一般内覧会 (3月24日)
- ② 観覧者に展覧会出品作品8点を除く全ての作品の撮影を許可した。

【主な放送・掲載誌等】

ウェブサイト「美術展ナビ」や「FASHIOIN PRESS」「SPICE」「ぴあ」等で紹介された。

<2> 展覧会鑑賞支援

(1) 資料配布

- ① 作品リストは紙での配布のほか、二次元バーコードの活用やウェブサイトへの掲載を行った。
- ② 「プチ・パレ美術館展」では出品作家一覧や美術運動を解説した「美術の流れ鑑賞ガイド」、小学生向けの「ワークシート」を配布した。

(2) 図録等販売物

- ① 全ての展覧会において図録を販売した。
- ② 「シダネルとマルタン展」「ボタニカル・アート展」「ブルターニュの光と風」でジュニア版ブックレットを販売した。

(3) 動画

- ① 当館の YouTube サイトにおいて、「シダネルとマルタン展」の解説動画を放映した。
- ② 「プチ・パレ美術館展」では人気アートディレクターの動画解説全8回シリーズを当館のSNSで公開した。

(4) 音声ガイド

「プチ・パレ美術館展」と「ブルターニュの光と風」では音声ガイド(約 30 分 600 円)を貸し出した。

(5) 学芸員によるスライドトーク、ギャラリートーク

閉館後の美術館において、「シダネルとマルタン展」と「プチ・パレ美術館展」では、学芸員によるスライドトーク(約 30 分)を、「ボタニカルアート展」ではギャラリートーク(約 40 分)を展覧会ごとに3回ずつ、予約制で実施した。

	第1回	第2回	第3回
シダネルとマルタン展	4/22(金) 17名	5/20(金) 20名	6/10(金) 19名
プチ・パレ美術館展 スライドトーク	8/5(金) 20名	8/26(金) 15名	9/16(金) 12名
ボタニカル・アート展 ギャラリートーク	11/11(金) 19名	12/9(金) 33名	1/6(金) 17名

<3> 展覧会別観覧者数

会期	展覧会名 (*は特別展)	開館 日数	有料 観覧者数	無料 観覧者数	観覧者数 合計	1日 平均
4/1-6/26	シダネルと マルタン展*	75	25,664	13,752	39,416	525
7/13-10/10	スイСПチ・パレ 美術館展*	80	27,537	12,531	40,068	500
11/5-1/15	ボタニカル・ アート展*	57	14,207	9,688	23,895	419
2/18-3/12	FACE展2023	20	4,823	3,976	8,799	439
3/25-3/31	ブルターニュの 光と風*	6	1,856	840	2,696	449
合計		238	74,087	40,787	114,874	482
<参考>昨年度合計		222	75,375	29,956	105,331	474

<4> 館蔵品・資料・文献の収集・整備

(1) 収集に関する事項

- ① 美術作品の受贈 (2月17日)
吉田桃子《Still milky_tune #4》2022年 アクリル絵具・ポリエステル布
- ② 美術資料の受託
東郷青児の出品展覧会絵はがき13枚

(2) 館蔵品展示

常設展示のゴッホ《ひまわり》のほか、以下のとおり館蔵品を展示した。

- ① プチ・パレ美術館展 ※会期中で館蔵品を展示替え
ルノワール、藤田嗣治、モーリス・ドニ、モーリス・ユトリロ、東郷青児等13点
- ② ボタニカル・アート展
セザンヌ《りんごとナプキン》、東郷青児《かぼちゃ》
- ③ FACE展2023
新藤杏子《Farewell》 ※昨年度のグランプリ作品
東郷青児4点、グランマ・モーゼス4点
- ④ ブルターニュの光と風
ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》

【主な放送・掲載誌等】

- ① NHKE テレ「ねこのめ美じゅつかん」(5/6 再放送)テレビ朝日『林修のレッスン！今でしょ！』(6/30)、NHK Eテレ「びじゅチューン！」まとめ番組(7/14)、TBS「プレバト!!」(10/6)、日本テレビ「ヒルナンデス」(10/10)で《ひまわり》が紹介された。
- ② ウェブサイト「楽活」(9/7)、「*and trip.」(8/18)のほか、読売中高生新聞(11/25付)、読売KODOMO新聞(3/30号)で《ひまわり》が紹介された。
- ③ 日本色彩学会の学会誌「色彩学」に、「美術館の照明計画の実際」として、《ひまわり》展示ケースの照明が紹介された。

- ④ 日本郵便(株)が発行する郵便切手「美術シリーズ 第4集」に《ひまわり》が使用された。(8/8 販売開始)
- ⑤ 当館の《ひまわり》と担当学芸員が出演する「アート・オン・スクリーン」シリーズ第3弾「ゴッホ「ひまわり」に隠された謎(原題:「Sunflowers」)」が、3月から順次全国上映された。
- ⑥ 小学館図鑑NEOアート「はじめての絵画」に《ひまわり》が掲載された。

(3) 館蔵品の保全

- ① 東郷青児素描4点、油彩7点の修復を行った。(5月～9月)
- ② 館蔵品のメンテナンス作業を実施した。(1月25日～2月11日)
- ③ 収蔵庫の清掃や作品の棚卸等は定期的を実施した。
- ④ 施設内の害虫発生状況を定期的に調査し、その結果、薬剤散布による防虫防除処理は実施しなかった。

(4) 作品・資料等のデータ整備

当館ウェブサイトにおいて、財団所蔵作品と寄託作品の情報を公開しており、順次画像データの公開と情報の充実に取り組んだ。

(5) 著作権の管理

東郷青児、東郷たまみの著作権は管理規程に基づき適正に管理した。(28件許諾)

<5> 館蔵品の貸与

作品名	貸与先等
東郷青児 油彩13点	カメイ美術館 「東郷青児と二科ゆかりの作家」 (会期:8/2～10/2)
山口華楊《幻化》	京都府立堂本印象美術館 「山口華楊ーいのちに心をよせてー」 (会期:10/8～11/23)
東郷青児 油彩61点 素描20点	倉敷市立美術館 「東郷青児・斎藤真一 それぞれの女性像」 (会期 10/22～12/18)
藤野一友《遊ぶ子供たち》	福岡市美術館 特別展「藤野一友と岡上淑子」展 (会期:11/1～1/9)
西山真一《ばら》、野間仁根《バラ》、 宮本三郎《花》、中村研一《ばら》、 東郷青児《静物(ゆりの花)》	カメイ美術館 「花の絵画展」 (会期:2023.3/7～5/21)

<6> 調査・研究

(1) 当館での執筆・講演活動

- ① 「シダネルとマルタン展」図録の翻訳と執筆に携わった。
- ② 「スイス プチ・パレ美術館展」図録の編集に携わった。
- ③ 「おいしいボタニカル・アート」図録の執筆、構成統括、翻訳に携わった。
- ④ 「FACE展2023」の図録を作成した。
- ⑤ 「ブルターニュの光と風」図録の執筆、編集、翻訳に携わった。
- ⑥ 以下のジュニア版ブックレットを作成した。
「シダネルとマルタン展」「おいしいボタニカル・アート」「ブルターニュの光と風」

⑦ 『SOMPO美術館 研究紀要』第1号を3月下旬に刊行した。

テーマは以下のとおり。

- 海外からの美術品借用における契約上の留意点
 - 借用契約書の諸条件の内容と、不可抗力に該当する事由が発生した際の対応—
- フィンセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》(F457/JH1666)の制作年について
- アンリ・マルタンの壁画装飾:その全容と歴史的意義に関する一考察

(2) 館外での執筆・講演活動

- ① 朝日カルチャー新宿教室が主催する講座で講師を務め、「シダネルとマルタン展」について解説した。(5月14日)
- ② 「新美術新聞」(11/1号)に寄稿し「ボタニカル・アート展」を紹介した。
- ③ 定年時代「ものしりミニ講座」(12/5号)に寄稿し「ボタニカル・アート展」を紹介した。
- ④ カメイ美術館で開催した「東郷青児と二科ゆかりの作家」展の作品解説を河北新報社に寄稿した。
- ⑤ 「アート・オン・スクリーン」シリーズ第3弾「Sunflowers」の全国上映にあたり劇場パンフレットに寄稿した。
- ⑥ 東京都美術館で開催されている「エゴン・シーレ」展の完全ガイド(AERA MOOK)の学術監修を行った。

2. 展覧施設の運営管理

<1> 施設運営

(1) 感染症対策

日本博物館協会や国、東京都のガイドラインに従い、適切な感染症対策を実施した。

- ① 入館時の手指消毒、検温、マスク着用、高頻度接触部位の消毒のほか、ショップやカフェ什器の間隔を広げ、トイレのハンドドライヤーの使用禁止、各階の消毒剤設置、事務局や館内スタッフの感染防止対策は継続実施した。
なお、政府のマスク着用緩和の方針を受け、「ブルターニュの光と風」からは入館者のマスク着用を任意とした。
- ② 「シダネルとマルタン展」では、日時指定予約システムによるオンラインチケット販売と窓口での当日券販売を併用し、入場者数を適切にコントロールした。
- ③ 「スイス プチ・パレ美術館展」からは入場時の日時指定を廃止し、エレベーターへの乗車人数制限を緩和、「FACE展2023」から受付及びショップレジ前の飛沫防止シールドを撤去した。

(2) 設備点検・補修

- ① 美術館建物、設備等に関し、2年目経過点検が実施された。(6月28日、7月4日)
- ② 3階展示室天井パネルのバネを交換した。(10月17日)
- ③ ビル管理会社(SOMPOコーポレートサービス(株))に協力し、消火設備、自動扉、空調設備等の点検及び動作確認を定期的実施している。

<2> 来館者サービスの提供

(1) ただいま東京プラスクーポンの利用開始

1月下旬に全国旅行支援の地域クーポン加盟店登録を行い、クーポンで展覧会当日券を購入できるようにした。

(2) ミュージアム・ショップの運営

- ① 図録やジュニア版ブックレットのほか展覧会オリジナルグッズを受託販売した。

- ② 「ブルターニュの光と風」では、感染症対策の緩和を受け、ショップ什器を増やし、主にゴッホ関連グッズのラインナップを増やした。
- ③ カメイ美術館「東郷青児と二科ゆかりの作家展」及び倉敷市立美術館「特別展 東郷青児と斎藤真一 それぞれの女性像」で、当館の東郷青児グッズを委託販売した。

(3) ミュージアム・カフェ等の運営

- ① カフェの営業は、「シダネルとマルタン展」「プチ・パレ美術館展」「ボタニカル・アート展」会期中の土日祝日とし、休業日や営業時間外は自動販売機を案内した。
- ② 「シダネルとマルタン展」では、軽食メニューとしてフランスにちなんだマカロンとチョコレートを選択し、利用者にはオリジナルコースターを無償提供した。「ボタニカル・アート展」では、アップルティーやチャイラテ、アップルパイをメニューに追加した。
- ③ カフェはレインフォレストコーヒー豆や紙ストロー、木のマドラー等の環境配慮型の商材を使用し、アイス飲料のカップも紙コップとした。

3. 美術鑑賞教育の普及支援

<1> 対話による美術鑑賞

(1) 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業

「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、新宿区教育委員会事務局及び公益財団法人新宿未来創造財団との3者で「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結した。

新宿未来創造財団との業務委託契約に基づき、ガイドスタッフによる新宿区立小中学校での事前授業支援や美術館での鑑賞会を以下のとおり実施した。

【事業実施結果】

事前授業	小学校10校 474名、中学校4校 244名 合計 14校 718名	ガイドスタッフ 延べ166名
鑑賞会	小学校27校 1,442名、中学校6校 394名 合計 33校 1,836名、先生 151名	ガイドスタッフ 延べ730名
ガイドスタッフ在籍数 74名 活動延べ人数 896名		

(2) ギャラリー★で★トーク・アート(予約制)

休館日にガイドスタッフや他の参加者と対話をしながら作品を楽しむ鑑賞会を開催。「スイス プチ・パレ美術館展」では、夏休み企画として「ふぁみりー★で★とーく・あーと」と銘打ち、家族やグループでの参加を呼びかけた。

シダネルとマルタン展	6/6(月) 14時～16時	参加者37名 ガイドスタッフ:30名
プチ・パレ美術館展	8/8(月) 10時～12時	参加者44名(うち中学生以下18名) ガイドスタッフ:28名
ボタニカル・アート	12/12(月) 14時～16時	参加者:23名 ガイドスタッフ:28名
FACE展2023	3/6(月) 14時～16時	参加者:23名 ガイドスタッフ:22名

4. 美術家の支援、表彰

<1> 「FACE」の全国公募

(1) 「FACE2023」の選考

(11月12日)

- ① 業務委託先(ヤマト運輸(株))の倉庫にて審査会を実施し、1,064点の応募作品から「入選審査」と「賞審査」を経て、入選作品81点(うち受賞作品9点)を決定した。
- ② 審査員は、野口玲一氏(三菱一号館美術館上席学芸員)、藪前知子氏(東京都美術館学芸員)、大島徹也氏(多摩美術大学准教授)、森谷佳永氏(神奈川県民ホールギャラリー学芸員)、当館梅本武文館長の5名である。
- ③ 選考結果は当館及び業務委託先のウェブサイトで公表した。

賞名	副賞金	作家名	作品
グランプリ	300万円	吉田桃子	《Still milky_tune #4》 アクリル・ポリエステル布
優秀賞	各50万円	植田陽貴	《whispering》 油彩・キャンバス
		ヨシミヅ コウイチ	《顕現(仮)》 アクリル・クラフト紙・パネル
		中嶋弘樹	《リビングルーム》 岩絵具・アクリル・箔・絹・和紙・ OHP フィルム・キャンバス
読売新聞社賞	30万円	橋口元	《リズム》 水彩・アクリル・鉛筆・キャンバス
野口玲一 審査員特別賞	各10万円	霧生まどか	《13年目の瞼》 リトグラフ
藪前知子 審査員特別賞		柳澤貴彦	《bonfire》 油彩・キャンバス
大島徹也 審査員特別賞		宮内柚	《Work5-2》 シルクスクリーン・キャンバス
森谷佳永 審査員特別賞		うえだあやみ	《視線の指先》 油彩・キャンバス
オーディエンス 賞	3万円	川本実果	《ある日の海》 発泡バインダー、樹脂顔料、 パステル、色鉛筆、帆布

- ④ 表彰式と内覧会を開催し、受賞者に盾を授与するとともに、受賞・入選作家が審査員や美術関係者、マスコミ等とつながる場や機会を提供した。(2月17日)

<2> SOMPO美術館賞の授与

新進美術家の支援・育成を目的とする「SOMPO美術館賞」を美術団体が実施する公募展の平面作品の受賞者22名に授与した。

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
1	第72回 モダンアート展	R4.4.2	田嶋 美雪	wann

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
2	第 81 回創元展	R4.4.6	田畑 明日香	青のある部屋
3	75 周年記念示現会展	R4.4.6	西野 博樹	雪の公会堂
4	第 81 回水彩連盟展	R4.4.7	石垣 渉	北国の雪の轍
5	第 108 回光風会展	R4.4.20	結城 唯善	昏光
6	第 99 回春陽展	R4.4.23	小山 瑞希	Life Goes On
7	第 88 回東光展	R4.4.26	西村 みのり	電子回路の記憶
8	第 96 回国展	R4.5.4	池田 愛花里	誰も私を愛さない
9	第 117 回太平洋展	R4.5.18	吉永 須華	infinity- II
10	第 88 回旺玄展	R4.5.23	大木 広美	SAYA
11	第 36 回日洋展	R4.6.1	富成 美佳	光源
12	第 78 回現展	R4.6.4	柳町 洋	あけぼの
13	第 75 回記念 女流画家協会展	R4.6.7	加藤 浩恵	言葉無き者
14	第 109 回日本水彩展	R4.6.26	長井 博司	ON THE SUNNY SIDE OF THE STREET
15	第 106 回二科展	R4.9.7	近藤 隆弘	繁殖—新天地を求めて—, 竜—静寂—
16	第 85 回新制作展	R4.9.21	田村 佳丈	水島合戦
17	第 32 回一水会展	R4.9.23	弓手 文乃	雨に泳ぐ
18	第 77 回行動展	R4.9.24	中村 公則	如件
19	第 89 回版画展	R4.10.10	川村 紗耶佳	rain sound VI
20	第 75 回記念二紀展	R4.10.22	齋藤 ナオ	明日へのリズム
21	第 89 回独立展	R4.10.29	立田 真	騒音とどしゃぶり
22	第 99 回白日会展	R5.3.23	原 太一	After The Rain

5. 広報・情報収集活動

<1> 広報活動

(1) 展覧会の広報活動

- ① 展覧会ごとにプレスリリースを作成し、プレス内覧会を開催した。
- ② ポスター・チラシの掲出・配布

他の美術館と連携し、相互に掲出・配布するとともに、大学や教育機関等へも送付した。10月末に「ゴッホと静物画展」の先行チラシと来年度展覧会一覧の配布を開始した。

- ③ 告知用CM・動画
 - ・「プチ・パレ美術館展」で15秒 CM を作成し、フジテレビや日本映画チャンネル（ケーブルTV）のほか、小田急線車内ビジョン、丸の内線新宿三丁目駅ホームビジョンでも放映した。
 - ・「ブルターニュの光と風」でも告知用のスポットCMを作成し、共催のフジテレビと当館のウェブサイトで公開した。
 - ・当館の YouTube に展覧会予告動画を投稿、Twitter、Instagram、Facebook を活用し、計画的に展覧会情報を発信した。
- ④ フォトスポットの設置や展示作品の撮影許可等により、来館者による展覧会情報の拡散を図った。
- ⑤ マスメディアへの広報活動や取材窓口は(株)ウインダムに業務委託した。
 - ・ウェブサイト「美術展ナビ」で来年度の「ゴッホと静物画展」が紹介された。
 - ・来年度展覧会が「美術の窓 12月号」「美術展ぴあ 2023」「日経おとなのOFF 2023」「大人が観たい美術展 2023」で紹介された。
- ⑥ 他の法人・団体との提携・協力
 - ・「東京ミュージアム ぐるっとパス」
 - 東京の美術館・博物館等共通入館券 2022 実行委員会「東京ミュージアム ぐるっとパス」に加盟し、「ぐるっとパス 2022」の販売と観覧料割引を実施した。
 - ・新宿区
 - 全ての展覧会で「後援」を取り付け、区の広報紙等で紹介してもらうとともに、行政機関でのチラシ配布に協力してもらった。
 - ・損保ジャパン及びグループ会社
 - 全国店舗でのチラシ配布等により、一般への告知を実施した。また、損保ジャパンが運営するコンテンツサイト「SOMPO Park」と連携し、メールマガジンでの展覧会情報の配信等を実施した。
 - SOMPOひまわり生命のテレビCM「ゴッホのひまわり篇」に当館の《ひまわり》が採用された。
 - ・西新宿 Love Walker、美術アプリ「ArtSticker」、みずほプレミアムクラブ、アートフェア等と提携し、展覧会情報を発信してもらった。
 - ・「ボタニカル・アート展」では、日英協会と連携し、閉館後の展示室で会員向けにギャラリートークイベントを実施した。（12月2日、参加者21名）
 - ・京王プラザホテルと連携し、全国旅行支援を活用した「ボタニカル・アート展」チケット付き宿泊プランを販売した。
 - ・ヒルトン東京と連携し、「ボタニカル・アート展」のチケットでヒルトン東京のレストラン・バーでの飲食代割引を行った。
 - ・公式電子チケット「アソビュー！」や美術アプリ「ArtSticker」等において、展覧会情報を発信してもらった。

(2) 美術館の広報活動

① 主な掲載誌

新宿区教育広報誌「しんじゅくの教育」(4月25日号)、新宿区情報誌「UD まちづくりニュースレター第5号」(6月発行)、美術手帖WEB「この夏、気楽に行ける都内の駅チカ美術館をピックアップ」、京王プラザホテルの「お出かけマップ」、「広報新宿9月25日号」、JALの機内誌12月号、「ZAITEN」1月臨時増刊号

② 当館ウェブサイトでの情報発信

世界的な気候変動への意識の高まりを受け、12月に当館の環境問題への取組について掲載するとともに、3月に決定したSOMPO美術財団のパーパスを公表した。また、海外の方から見て分かりやすい表現への変更など、サイト全体の英語表記の充実を図った。

(3) 広告の実施

① 東京メトロ乃木坂駅に年間通して展覧会ポスターを掲出した。

② 展覧会ごとに京王線等への交通広告を実施した。

③ 展覧会ごとに Twitter や Facebook、Instagram によるSNS広告を実施した。

④ ブライトサインの実施 (4月11日～24日)

新宿駅西口地下街(新宿駅前交番からスバルビル新宿の目まで)の柱に美術館の移転と「シダネルとマルタン展」を告知するポスターを掲出した。

⑤ 「プチ・パレ美術館展」では、朝日新聞の朝刊東京セット版(1都6県)に半5段広告を掲出した。(7月30日)

⑥ 「FACE2023」では、読売新聞夕刊に受賞者決定の広告を掲出した。(2月17日)

(4) 西新宿の再整備等への関与

① 東京都による「西新宿先端サービス実装・産官学コンソーシアム」の地域会員に入会し、「5G等先端技術サービスプロジェクト」であるAIによる映像・音楽生成システムの設置や西新宿の回遊を促すQRくじの実施等に協力した。(1月～3月)

② 新宿区による新宿フィールドミュージアム(10/1～11/30)に協賛した。

③ (一社)新宿副都心エリア環境改善委員会のイベント「FUN MORE TIME SHINJUKU(ファンモアタイム新宿)」(期間:11/19～27)に協力し、美術館内にデジタルスタンプラリーのスポットを設置した。

④ (一社)新宿観光振興協会主催の「新宿ナゾトキウィーク」(期間:10/15～12/25)に協力し、新宿駅近くの5つのスポットを巡りながらVRによる謎ときイベントで、美術館前庭の「ひまわり」陶板をスポットとして提供した。

<2> 情報収集活動

全国美術館会議総会や全国博物館大会、私立美術館会議総会への出席やオランダ大使公邸やスウェーデン大使公邸への招待、国内外の美術館館長の表敬訪問等を通じて情報収集や意見交換を行った。

6. 公共への協力

<1> 文化庁による実証実験「美術品 DX による管理適正化・市場活性化推進事業」に関して、作品へのICタグ設置等に協力した。

<2> 新宿消防署主催の児童画展審査会に協力し、当館学芸員が審査員を務めた。

<3> 早稲田大学に研究留学中のドイツ・ボン大大学院博士課程の研究者からの東郷青児初期作品20点に関する詳見の要請を受け入れた。

<4> 感染症拡大防止の観点から当年度も学芸員資格取得のための博物館実習は休止した。

<5> ウクライナ及び近隣国における人道支援活動への寄付

「シダネルとマルタン展」会期中におけるゴッホ《ひまわり》ポストカードの売り上げの一部と来館者による募金を以下の5団体を通じて寄付した。

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)、UNICEF(国連児童基金)、セーブ・ザ・チルドレン、日本赤十字社、ジャパンプラットフォーム

Ⅱ. 法人の概況

1. 沿革

1976年6月1日	財団法人安田火災美術財団設立
1976年7月8日	東郷青児美術館を安田火災(現:損保ジャパン)本社ビル42階に開設
1987年4月1日	安田火災東郷青児美術館に館名変更
2002年7月1日	財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更 損保ジャパン東郷青児美術館に館名変更
2010年4月1日	公益法人に移行し、公益財団法人損保ジャパン美術財団に名称変更
2014年9月1日	公益財団法人損保ジャパン日本興亜美術財団に名称変更 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館に館名変更
2020年4月1日	公益財団法人SOMPO美術財団に名称変更 SOMPO美術館に館名変更し、新美術館棟へ移転

2. 定款に定める目的

この法人は、絵画、彫刻等の美術作品を収集し、保存するとともに広く一般の鑑賞に供し、併せて新進の創作を奨励し、もって我が国芸術文化の振興と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 美術作品の収集、保存、公開
- (2) 展覧施設の運営管理
- (3) 美術家の支援、表彰
- (4) 美術鑑賞の教育普及
- (5) 頒布品の製作、販売
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4. SOMPO美術財団のパーパス

“安心・安全で信頼される美術館として 芸術文化で心豊かな社会をつくり 芸術文化を未来へつなぐ“

＜社会に提供する3つの価値＞

- 多様性のある人材やつながりにより、芸術文化の今と未来をつくる力を育む
- 身近な美術鑑賞の場の提供により、人々の感性と知的好奇心を刺激する
- ≪ひまわり≫をはじめとするコレクションを守り、活動成果とともに未来に残す

5. 主たる事務所

東京都新宿区西新宿一丁目26番1号

6. 役員等に関する事項

2022年度末現在

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
理事長 代表理事 (非常勤)	櫻田 謙悟	2022.6.23	SOMPOホールディングス(株) グループCEO取締役代表執行役会長	2022.6.23
専務理事 業務執行理事 (常勤)	梅本 武文	2022.6.23	SOMPO美術館館長	2021.6.25
理事 (非常勤)	千足 伸行	2022.6.23	広島県立美術館館長、 成城大学名誉教授	1998.6.24
理事 (非常勤)	樺山 紘一	2022.6.23	(公財) 渋沢栄一記念財団理事長、 東京大学名誉教授	2008.6.24
理事 (非常勤)	今野 秀洋	2022.6.23	(一財) 貿易・産業協力振興財団理事長	2016.6.29
理事 (非常勤)	山脇 晴子	2022.6.23	中央更生保護審査会常勤委員	2018.6.29
理事 (非常勤)	垣内 恵美子	2022.6.23	政策研究大学院大学名誉教授、 文化政策コースディレクター	2022.6.23
監事 (非常勤)	新里 智弘	2020.7.15	公認会計士	2007.6.19
監事 (非常勤)	内田 満雄	2020.7.15	公認会計士	2016.6.29
評議員 (非常勤)	宝木 範義	2022.6.23	美術評論家	2008.6.24
評議員 (非常勤)	小佐野 重利	2022.6.23	東京大学名誉教授、 同大学院新領域創成科学研究科人間 環境学専攻特任研究員	2009.3.31
評議員 (非常勤)	加藤 種男	2022.6.23	(公財) 静岡県文化財団副理事長、 クリエイティブ・ディレクター	2016.6.29
評議員 (非常勤)	越川 倫明	2022.6.23	東京藝術大学教授	2016.6.29
評議員 (非常勤)	斎藤 勝利	2022.6.23	第一生命保険(株)特別顧問	2020.7.15
評議員 (非常勤)	水越 雅信	2022.6.23	DIC(株)常勤顧問、 DIC川村記念美術館館長	2020.7.15
評議員 (非常勤)	河村 潤子	2022.6.23	(独) 日本芸術文化振興会理事長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	高橋 明也	2022.6.23	東京都美術館館長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	松本 透	2022.6.23	長野県立美術館館長	2022.6.23

職名	氏名	就任日	主な現職	最初の就任日
評議員 (非常勤)	山梨 絵美子	2022.6.23	千葉市美術館館長、 (公財)日本博物館協会会長	2022.6.23
評議員 (非常勤)	石川 耕治	2022.6.23	SOMPOホールディングス(株) グループCERO執行役常務	2022.6.23
評議員 (非常勤)	下川 亮子	2022.6.23	SOMPOホールディングス(株) グループCSuO執行役	2022.6.23
評議員 (非常勤)	丸木 崇秀	2022.6.23	損害保険ジャパン(株) 経営企画部特命部長	2021.6.25

7. 職員に関する事項

2022年度末現在

職名	氏名	就業年月日	担任業務	備考
事務局長	太田 裕也	2021.4.1	事務局事務統括	損害保険ジャパン(株)より出向
上席学芸員	小林 晶子	1997.9.1	資料の収集・保管・展示、 調査研究、その他専門的業務	
主任学芸員	中島 啓子	1997.10.1	〃	
学芸員	武笠 由以子	2017.10.1	〃	
学芸員	岡坂 桜子	2019.1.1	〃	
学芸員	朝倉 南	2022.7.1	〃	
参事(学芸・ 広報担当)	五十嵐 卓	1999.4.1	資料の収集・保管・展示、その 他専門的業務、広報事務等	
参事 (学芸担当)	江川 均	1998.4.1	資料の収集・保管・展示、 その他専門的業務	
担当部長	村田 明弘	2018.4.1	契約、渉外、広報事務等	損害保険ジャパン(株)より出向
事務主任	出口 知子	1999.10.1	財団総務・美術館運営事務等	
事務職員	本條 志穂	2003.10.1	美術館運営事務、広報事務等	
事務職員	池田 美紀	2012.4.1	美術館運営事務、財団総務等	
事務職員	杉本 典子	2012.4.1	美術館広報事務等	
事務職員	吉井 有紀	2013.4.1	鑑賞教育事務、広報事務等	

8. 役員会等に関する事項

<1> 理事会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2022年6月2日	定款第38条に基づく理事会決議の省略による決議 ■決議事項 定時評議員会の招集 2021年度事業報告及び決算報告の承認	原案どおり可決 原案どおり可決
2022年6月23日	■報告事項 活動状況報告 (2022年3月19日～6月20日) 理事長・専務理事の職務執行状況 (2022年3月16日～6月20日) 理事の利益相反取引の報告	
2022年6月23日	■決議事項 理事長の選定 専務理事の選定 定例役員報酬の承認	櫻田謙悟理事を 理事長に選定 梅本武文理事を 専務理事に選定 原案どおり可決
2023年3月22日	■決議事項 SOMPO美術財団のパーパス及び中長期の対応 方針の承認 2023年度事業計画及び収支予算等の承認 2024年度展覧会の開催 特定費用準備資金等の積立 役員等賠償責任保険契約の承認 ■報告事項 活動状況報告 (2022年6月21日～2022年3月13日) 理事長・専務理事の職務執行状況の報告 (2022年6月21日～2023年3月13日)	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり可決

<2> 評議員会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
2022年6月23日	■決議事項 2021年度決算報告の承認 定款の変更 任期満了に伴う評議員の選任 任期満了に伴う理事の選任 ■報告事項 2021年度事業報告 2022年度事業計画及び収支予算等の報告 2023年度展覧会の開催	原案どおり可決 原案どおり可決 原案どおり選任 原案どおり選任

9. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

届出等年月日	申請等事項
2022年6月9日	東京都及び文部科学省へ「青少年を対象とした取組等に関する実績報告(2021年度)」を提出
2022年6月30日	内閣府へ2021年度事業報告等を提出
2022年7月15日	内閣府へ評議員及び理事長、理事の変更届を提出
2022年7月19日	東京都へ登録博物館の登録事項(理事長、学芸員)の変更届を提出
2022年11月1日	健康保険組合連合会東京連合会による健康優良企業「銀」の認定
2023年3月30日	内閣府へ2023年度事業計画書等を提出

10. 寄付金等に関する事項

当年度から主たる出捐者が損害保険ジャパン(株)からSOMPOホールディングス(株)に変更した。

寄付の目的	寄付者	領収金額
公益目的事業に充当	SOMPOホールディングス(株)	56,700,000円
	法人・団体 29件	6,230,000円
	個人 41件	2,028,000円
収益目的事業に充当	団体 1件	500,000円
法人の管理運営に充当	SOMPOホールディングス(株)	21,300,000円

11. 行政庁指示に関する事項

該当なし

12. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上